

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 2 卷

平成 27 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

看護キャリア支援センターの目的は、看護師等のキャリア形成を支援することにより、熟練した看護技術と知識を有し、水準の高い看護が実践できる看護師等を育成し、県民の健康・福祉の向上に資することです。そのために、看護師等のキャリアアップの啓発、認定看護師教育課程の実施などの事業を行っています。

平成 26 年度から開始した「感染管理認定看護師教育課程」は 2 年目となり、26 年度修了生 29 名が感染管理認定看護師として認定されました。当センターが実施している認定看護師教育は指定された教育内容で構築していますが、医療や福祉の動向や人々の生き方や考え方に柔軟に対応する教育内容と方法への可能な限りの工夫を図っています。

看護キャリア支援センター事業の運営は、センター独自では難しく、多くの関係機関のご協力により事業を開催することができたと考えております。これからも、医療の進歩や人々の価値の変化に伴う時代の要請に応えながら、看護職者のキャリア形成支援に取り組みたいと考えております。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
丸岡直子

目 次

(ページ)

I. 感染管理認定看護師教育課程	1-5
1. 目的・目標	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	1
4. 評価	4
5. 今後の課題	5
II. 保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）	6-7
1. 目的・目標	6
2. 実施状況	6
3. 実施内容	6
4. 評価	7
5. 今後の課題	7
III. 専門的看護実践力研修（分野別実践看護師養成研修）「感染管理」	8-9
1. 目的・目標	8
2. 実施状況	8
3. 実施内容	8
4. 評価および今後の課題	9
IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	10-11
1. 目的	10
2. 実施状況	10
3. 実施内容	10
4. 評価および今後の課題	11
V. 石川県高度・専門医療人材養成支援事業 在宅療養移行支援「退院支援」	12-13
1. 目的	12
2. 実施状況・実施内容	12
3. 評価および今後の課題	13

I. 平成 27 年度 感染管理認定看護師教育課程

1. 目的・目標

【目的】

医療関連感染の予防と管理に必要な専門的知識及び高度な技術を持つ感染管理認定看護師を育成し、安全な医療を提供する。

【目標】

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステムについて理解する。
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査について知る。
- 3) 病院感染対策の基本をふまえ、エビデンスのある感染防止技術を理解する。
- 4) 職業感染予防を理解する。
- 5) 医療関連感染サーベイランスについて理解する。
- 6) 自施設の感染防止対策の課題を明らかにし、改善策を考える。

2. 実施状況

【期間】

平成 27 年 7 月 7 日（火）～ 平成 28 年 2 月 17 日（水）

【履修生数】

20 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

性別	女性 18 名 男性 2 名
平均年齢	41.1 (27-48) 歳
所属施設の所在地	石川県：8 名、富山県：6 名、福井県：2 名、岐阜県：1 名 京都府：1 名、兵庫県：1 名、岡山県：1 名

2) 入学時の臨床経験年数と感染に関する実務経験年数 (表 1)

表 1 入学時の臨床経験と感染に関する実務経験

	臨床経験 (名)	感染に関する実務経験 (名)
3 ～ 5 年		14
5 ～ 10 年	2	4
11 ～ 15 年	6	2
16 ～ 20 年	8	
21～	4	
平均経験年数	16 年	5 年

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた

認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表2に示す。

表2 授業科目と時間数

授 業 科 目		時間数
共 通 科 目	看護管理	15
	リーダーシップ	15
	文献検索・文献講読	15
	情報管理	15
	看護倫理	15
	指導	15
	相談	15
	臨床薬理学	15
		【小計】 120
専 門 基 礎 科 目	感染管理学	30
	疫学と統計学	30
	微生物・感染症学	45
	医療管理学	15
	【小計】 120	
専 門 科 目	医療関連感染サーベイランス	45
	感染防止技術	30
	職業感染管理	15
	感染管理指導と相談	15
	洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント	15
	【小計】 120	
学内演習 感染管理プログラムの立案Ⅰ 感染管理プログラムに必要な知識 微生物検査演習学内演習		90
臨地実習		180
総時間数		630

【担当教員】

主任教員：竹村美和（特任講師）

担当科目：看護管理、リーダーシップ、看護倫理、感染管理学、医療関連感染サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、感染管理指導と相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント、学内演習、臨地実習

専任教員：近藤祐子（特任講師）

担当科目：リーダーシップ、相談、感染管理学、医療関連感染サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント、学内演習、臨地実習

【非常勤講師・担当科目】

非常勤講師・担当科目一覧を表 3 に示す。

表 3 学外非常勤講師・担当科目

講師名	所属	担当科目
吉村光弘	公立能登総合病院	情報管理
中出順也	金沢大学附属病院	臨床薬理学
塚本容子	北海道医療大学	臨床薬理学
田淵克則	国立病院機構金沢医療センター	臨床薬理学
池田浩幸	石川勤労者医療協会城北病院	臨床薬理学
洪 愛子	日本看護協会	感染管理学
藤田 烈	東京大学医学部附属病院	疫学と統計学
飯沼由嗣	金沢医科大学	微生物・感染症学
薄田大輔	金沢医科大学	微生物・感染症学
西 耕一	石川県立中央病院	微生物・感染症学、
土島 睦	金沢医科大学	微生物・感染症学
中積泰人	金沢市立病院	微生物・感染症学
中谷安宏	石川県立中央病院	微生物・感染症学
笹川寿之	金沢医科大学	微生物・感染症学
森岡浩一	金沢医科大学	微生物・感染症学
新川晶子	石川県立中央病院	微生物・感染症学、医療関連感染サーベイランス
千田靖子	金沢大学附属病院	微生物・感染症学
金谷和美	金沢医科大学病院	微生物・感染症学
浅香敏之	国立病院機構金沢医療センター	微生物・感染症学
水野宏昭	地域医療支援機構金沢病院	微生物・感染症学
南 陸男	能登中部保健福祉センター	医療管理学
新谷静子	東海北陸厚生局石川事務所	医療管理学
高山一夫	京都橘大学	医療管理学
中村 隆	中村・平井・田邊法律事務所	医療管理学
内海桃絵	京都大学医学研究科	医療関連感染サーベイランス
森兼啓太	山形大学医学部附属病院	医療関連感染サーベイランス
森下幸子	医療法人永広会島田病院	感染防止技術
木下幸子	金沢医科大学	感染防止技術
森河裕子	金沢医科大学	感染防止技術
架間ゆき子	金沢市立病院	職業感染管理
池田恵子	石川勤労者医療協会城北病院	洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント
所 正治	金沢大学	微生物検査演習
浅見 洋	石川県立看護大学	看護倫理
石川倫子	石川県立看護大学	文献検索・文献講読、指導、感染管理指導と相談
今井美和	石川県立看護大学	微生物検査演習
大木秀一	石川県立看護大学	疫学と統計学
垣花 涉	石川県立看護大学	学内演習（プレゼンテーション）
川島和代	石川県立看護大学	医療管理学
武山雅志	石川県立看護大学	相談
松原 勇	石川県立看護大学	情報管理
丸岡直子	石川県立看護大学	看護管理、リーダーシップ

【教育課程の実施状況】

感染管理認定看護師教育課程の年間スケジュールは表 4、実習施設は表 5 に示す。

表 4 年間スケジュール

日程	実施内容
7月7日	開講式
7月～10月	講義・演習
10月5日～7日	微生物演習
11月9日～12月11日	臨地実習
12月16日	実習報告会
平成28年1月8日	感染管理プログラム発表
1月25日	修了試験
2月10日	特別講義
2月17日	修了式

表 5 臨地実習施設と実習指導者

施設名	実習指導者
医療法人社団浅ノ川総合病院	江波 麻貴、上島 雅子
公立松任石川中央病院	嶋田 由美子
金沢医科大学病院	野田 洋子
国立病院機構金沢医療センター	西原 寿代
福井赤十字病院	田中 真理子
福井大学医学部附属病院	室井 洋子
石川勤労者医療協会城北病院	池田 恵子
富山大学附属病院	北川 洋子
金沢市立病院	架間 ゆき子

4. 評価

【履修状況に関する評価】

講義・演習については、履修生全員が期間内に科目認定され、実習を履修することができた。実習では、講義・演習での知識・技術が統合した学びが得られ、全員が認定された。その上で修了試験を受け、履修生 20 名全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。

【履修生の学んだ内容（一部抜粋）】

1) サーベイランス

- ・医療関連感染サーベイランスについて、情報収集・分析・フィードバックの方法など、一連の流れについて学んだ。
- ・認知症の患者や寝たきりの患者など、コミュニケーションをとることが困難である患者に対して、効果的な情報収集方法について検討していくことが重要だと学んだ。
- ・相手が納得でき、より良いケアにつなげてもらえるような結果のフィードバックの難しさを学んだ。

- ・患者の立場に立って、最終的に患者にどのような結果をもたらすべきか、共に考える。
- ・仲間の協力が不可欠である事を学んだ。

3) システム

- ・感染管理認定看護師として活動し、スタッフが感染対策を実施していく上でも、感染管理システムの構築は、自施設にとっても最優先課題である。
- ・感染管理に対するリンクナースへの関わりは、意見を押し付けるのではなく一緒に考え、一緒に行動することや、リンクナースの意思を尊重し考えさせることが大切であることが学べた。
- ・信頼関係を構築し、共に考えていけるような体制作りが必要であると学んだ。

4) 指導

- ・感染管理の視点がぶれないように、すり合わせていく事の難しさを学んだ。
- ・業務の中に取り入れていけるような感染対策を提供し、参加型の指導にできるように努めていきたいと思った。
- ・決して、相手を否定せず、相手の話を聞きながら相手の行動を強制せず、穏やかな態度と言動、平常心が大切であると学んだ。

【認定看護師審査】

平成 28 年 5 月に行われた第 24 回認定看護師認定審査で、19 名が感染管理認定看護師を取得した。

5. 今後の課題

教育課程の期間については、1 週間長くしたことで、講義・演習の科目認定後に実習の準備がゆとりを持ってできた。また実習開始日を早めたことで、実習指導者が指導に専念できた。次年度も教育期間、実習開始日は今年度の日程で行っていく。感染管理認定看護師のいない施設からの履修生は、認定看護師の活動や役割がイメージできなく、自施設の感染管理プログラムを立案出来ない傾向にあった。そのため、次年度は入学当初に、シャドウイング演習を企画する。

II. 平成 27 年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）

1. 目的・目標

【目的】

特定の分野の実習指導を行う者に対して、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、学生の学びを活かす実習指導のあり方を修得する。

【目標】

- 1) 「教育」と「学習」の概念を理解し、学習を支援するとはどういうことかを考える。
- 2) 青年期の心理的特徴と学習過程における心理を理解する。
- 3) 学習支援とその評価について理解する。
- 4) 看護基礎教育課程の考え方と当該実習の学習内容を理解する。
- 5) 看護学教育における実習の意義と実習指導者のあり方を理解する。
- 6) 学生が看護実践から学ぶ、その支援をする実習指導方法を理解し、自己の実習指導のあり方を考える。

2. 実施状況

【受講者数】 24 名

【参加施設】

訪問看護ステーション	16 名
老人保健施設	5 名
病院	2 名
看護学校	1 名
臨床看護経験年数	19.3 年
実習指導者経験年数	3.5 年



グループワークの様子

3. 実施内容

表 1 研修内容と講師

日 時	研修内容	講 師		
8 月 12 日 (水)	実習指導の原理	石川県立看護大学	准教授	石川 倫子
8 月 20 日 (木)	看護教育課程	石川県立看護大学	臨時講師	小清水明子
			教授	林 一美
		国立病院機構金沢医療センター 附属金沢看護学校	教育主事	西村 民子
	教育原理・教育心理	金沢星陵大学人間科学部	教授	高 賢一
8 月 21 日 (金)	教育方法・教育評価	金沢大学人間社会学域	准教授	本所 恵
	実習指導の実際 I	石川県立看護大学	准教授 講師	石川 倫子 林 静子
9 月 10 日 (木) 11 日 (金) 17 日 (木) 18 日 (金)	実習指導の実際 II	石川県立看護大学	准教授	石川 倫子
			臨時講師	小清水明子
			教授	林 一美
		国立病院機構金沢医療センター 附属金沢看護学校	教員	大野 澄子



実習指導場面の発表

4. 評価

【修了者数】 24名

【評価】

看護学教育における実習の位置づけと意義を理解し、実習指導者としての役割を認識し、学生の学びを活かす実習指導のあり方が理解できるように、講義・演習を行った。グループワークを中心に、時にはロールプレイを行うことで、指導者主導の指導と学習者中心の指導の違いを実感し、新たな自己の課題に気づく場面もあった。指導案作成では、1つの指導場面を取り上げ、学生の経験を活かす指導のあり方と方法を学習し、学生の経験を引き出す発問の難しさを実感していた。受講者全員が講習会の目標を概ね達成していた。

1) 講習会プログラムに対する受講者の意見

- ・講義を聞いて、その内容を実際にグループワークで現場の場面として考えてみるという方法はとても印象に残るし、実際の方法としてイメージしやすくて良かった。
- ・グループワークでメンバーの意見を聞き、共に掘り下げていく方法を多く取り入れてもらったので、より学びも深くなった。
- ・ロールプレイはよかった。カンファレンス場面と援助の実際で2回行ってもよかった。
- ・学生の生の声を聞いてみたい。実習に対する思いや期待、不安、希望など

2) 受講生の学びの一部

- ・訪問看護の利用者の居宅に移動中の車内での学生に対する問いかけや、カンファレンスでそれぞれの学生がみてきたことを皆で（他の学生や訪問看護師も）共有できるように対話を充実させようと思う。話をする時間をとってあげたいと思った。
- ・伝えるばかりでなく、聞くことや見せることも立派な指導の方法なのだと一番強く学んだ。
- ・学生の思いを聞き出すということの大切さを学んだ。自分の思いと学生の思いをお互いに知ること、目標に向かうことができ、更に学びを深めて達成感を得られることを学んだ。

5. 今後の課題

実習の具体的な評価について、受講生からの希望もあるため、今後は講習会プログラムに含めていく必要がある。地域で実習指導に関わる方々が多く参加できるように、日程を工夫していくことが課題である。

Ⅲ. 平成 27 年度 専門的看護実践力研修（分野別実践看護師養成研修）「感染管理」

1. 目的・目標

【目的】

感染管理について専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担える看護師を育成する。

【目標】

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステムについて理解する。
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査について知る。
- 3) 病院感染対策の基本をふまえ、エビデンスのある感染防止技術を理解する。
- 4) 職業感染予防を理解する。
- 5) 医療関連感染サーベイランスについて理解する。
- 6) 自施設の感染防止対策の課題を明らかにし、改善策を考える。

2. 実施状況

【受講者数】 48 名

受講者は、石川県内の 36 医療施設に所属する 48 名であった。そのうち半数以上はリンクナースの経験があった。今年初めて老人保健施設等から 5 名の受講があった。

【受講者の背景】

看護師長	6 名
副看護師長	8 名
リンクナース	30 名

【看護師経験年数】

6 年～10 年未満	13 名
10 年～20 年未満	13 名
20 年～30 年未満	19 名
30 年以上	3 名

3. 実施内容

- 1) 感染管理における病院の役割と機能及びシステム
- 2) 感染管理に必要な感染症と抗菌薬、および微生物と微生物検査
- 3) 病院感染対策の基本
- 4) エビデンスのある感染防止技術
- 5) 職業感染予防
- 6) 医療関連感染サーベイランス
- 7) 自施設の感染防止対策の課題の明確化と改善策

これらの講義・演習内容を石川県内の医師 2 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 2 名、感染管理認定看護師 8 名が担当した。

4. 評価および今後の課題

実施内容の1)～6)について、アンケート結果では、受講者の8割以上が「とても理解できた」「理解でできた」と回答された。また、実施内容7)の自施設における感染防止対策の課題の明確化と改善策については、グループワークを通して、具体的な改善策を検討することができ、自施設における役割も見出すことができていた。これらから、受講生が自施設において、それぞれの立場で感染防止対策の向上に貢献できるのではないかと考える。

今後は、施設の状況に応じたより実践的な感染管理研修にするために、医療施設と老人保健施設をわけて研修を実施することが課題である。



グループワークの様子

IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

1. 目的・目標

【目的】

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

【目標】

医療機関の経営管理課題に対し、解決策を査定することができる。

2. 実施状況

石川県内 19 病院から 27 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 28.2 年であり、職位は、看護部長 1 名、副看護部長 4 名、看護師長 22 名であった。なお、研修内容の一部を公開講座とし、49 名が参加した。

3. 実施内容

平成 27 年 11 月 13～14 日、11 月 27～28 日に下記の内容で、前半の 2 日は講義形式、後半の 2 日は講義・演習形式により研修を実施した。

表 1. 研修内容と講師

日 時	研修内容	講 師
11 月 13 日（金） 10:00～12:30 13:30～15:30	看護と介護の連携を考える 人々の在宅療養を支援し地域に根ざす病院の役割	大阪保健福祉専門学校 副学校長 豊田百合子 脳神経センター 大田記念病院 大田章子
11 月 14 日（土） 9:00～12:00 13:00～15:00	[公開講座] 地域と病院の連携についての新たな組織づくり 地域包括ケア時代における看護管理者の役割	芳珠記念病院 看護局長 出口まり子 聖路加国際大学 看護学部 教授 吉田千文
11 月 27 日（金） 9:00～16:00	看護管理者のための 病院経営数字力	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村路子 副看護部長 高見知世子
11 月 28 日（土） 9:00～16:00	組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略	滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村路子 副看護部長 高見知世子 (ファシリテーター) 林春美 (石川県立中央病院) 藤田恵子 (国立病院機構医王病院) 中村真寿美 (金沢医科大学病院) 河内昌子 (石川県済生会金沢病院)

4. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容に対する理解や活用 (図 1)

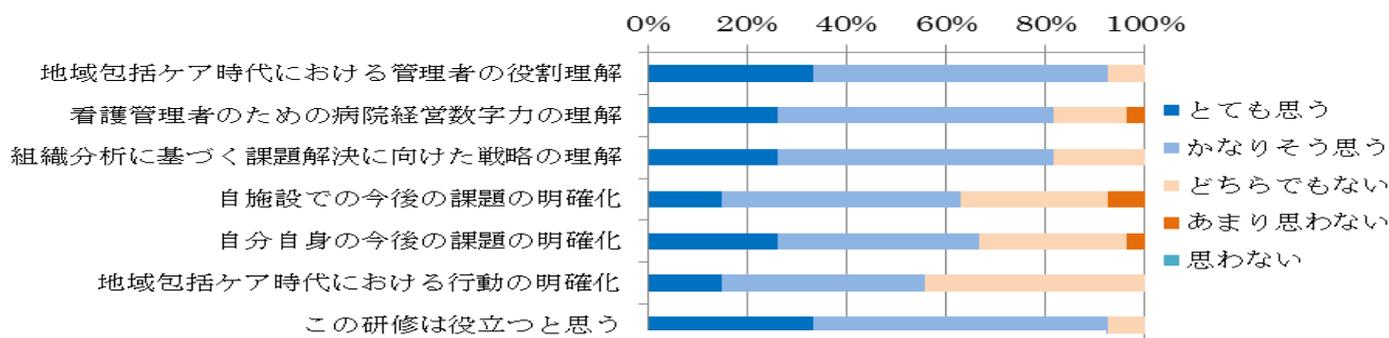


図 1. 研修内容に対する理解や活用

(2) 自由記載より (抜粋)

- ・現場にあった講義内容でよく理解できた。講師陣がとてもよかった。同じ立場で相談・情報交換できる機会となり、とても充実していた。
- ・データを活用できる看護管理者になりたい。
- ・データの分析や問題解決法、交渉力などとても興味深い内容で学びも多かった。
- ・地域包括ケアについても深めることができ、とても有意義な研修であった。
- ・看護協会のセカンド研修で同様の講義を受けた経験があるが、今回は講師が実際の経験から話をされ、理解がすすみ、本当の意味で実践に活かせると感じた。
- ・期間も長くなりすぎると自施設の業務が滞るが、4日間の研修期間は適切であった。

2) 全体的な評価と課題

受講生全員が4日間の所定の研参に参加し、修了した。

今年度の看護管理者経営研修では、地域包括ケアシステムの構築が進む中、医療施設における看護管理者の果たす役割を考究し、看護実践の改善につなげる内容を企画した。医療施設が直面している課題は、トップマネジメントの立場にある管理者だけでは達成することはできず、中間管理者の果たす役割も大きい。受講生のほとんどが看護師長であり、地域に果たす自施設の役割を再認識し、人々の在宅療養を支える看護の役割を再考できたのではないかと考える。

また、看護管理者として病院経営に関与するには、多くのデータから組織分析する能力と看護管理上の課題解決を図る戦略と交渉力も不可欠である。このような主旨から、研修の後半にはロールプレイやグループ討議を取り入れた研修を実施した。データを活用した業務改善や組織変革の具体的な方法を学ぶことができた。

受講生からのアンケート調査では、受講生から高い評価を得ることができ、データを活用した看護管理を目指したいとの感想がみられた。また、受講生同士の交流からの学びも大きかったことが評価できる。以上より、研修目的は達成できたと考える。

研修期間は初冬に重なっており、次年度は、天候による交通機関の影響の少ない時期に開講したい。



研修の様子

V. 平成 27 年度 石川県高度・専門医療人材養成支援事業 在宅療養移行支援 「退院支援」

1. 目的

医療施設において入院患者に退院支援を行う看護師に対して、外来から始まる退院支援プロセス、多職種連携、在宅医療および家族看護の理解を深めるための事例検討会や退院支援セミナーを開催し、患者・家族に対する看護師の退院支援能力の向上を目指す。

本研究会の活動は、平成 26～27 年度に石川県高度・専門医療人材養成支援事業の助成を受け、本学附属看護キャリア支援センターの後援により実施したものである。

2. 実施状況と内容

【担当者】

丸岡直子、林一美、石川倫子

下嶋恵美子、向井孝子、尾崎真裕美、倉下陽子、新田敦子、細畑陽子、西村元一

【内容】

1) 退院支援セミナー（表 1）

表 1. 開催日時とテーマ・講師（退院支援セミナー）

回	開催日時	テーマ・講師	参加数
1	8 月 22 日（土） 13:00～15:00	訪問看護と病院看護の連携 講師：木谷幸子 （看護小規模多機能型居宅介護事業所「こすもすの家」） 講師：川口真理子 （こすもす訪問看護ステーション金沢） 連携カフェ：病院・在宅等で活躍する看護師の情報交換	32 名
2	10 月 10 日（土） 14:10～16:00	認知症高齢患者・家族の生活を支援する退院調整 講師：石原ゆきえ （昭和大学江東豊洲病院 老人看護専門看護師）	86 名
3	11 月 28 日（土） 13:00～16:00	Patient Flow Management（PFW）による 外来-病棟連携在宅移行支援システムの構築と運営	95 名



病院&在宅看護の連携カフェでの自己紹介



第 2 回 講師（前列左から 3 人目）を囲んで

2) 公開事例検討会

表 2. 開催日時とテーマ・講師 (公開事例検討会)

回	開催日時	テーマ	開催場所	参加数
1	9月4日(金) 18:30~20:00	院後の療養を支えるための 患者・家族へのアプローチ	やわたメディカルセンター 多目的ホール	84名
2	10月10日(土) 13:00~14:00	認知症高齢患者の退院支援を考える	石川県リハビリ テーションセンター	85名
3	10月30日(金) 17:30~18:50	在宅療養を支える訪問看護師を含めた 医療チームの役割と連携	あへの風	95名
4	12月18日(金) 18:30~20:00	一人暮らしの患者の在宅療養を 支えるためのアプローチ	公立松任石川中央病院	57名



病院看護師による退院支援事例紹介



事例検討会での全体討議

3. 評価および今後の課題

毎回、80%を超える参加者が臨床で行っている退院支援を振り返る機会となったと回答した。
(主な感想)

- ・退院支援に向けて家族との関わりを避けていたように思うが、意識して患者本人と家族を含めての関わりが重要である。
- ・家族のことをみる、考える、関心を持つ。
- ・患者・家族の思いを確認し、その思いを大切にしながら生活背景にも視点を向けて、退院支援に関わっていききたい。
- ・患者だけではなく、介護している家族にも着目して考えていきたい。
- ・早期から退院支援を始めることが大切だとわかった。
- ・訪問看護師やメディカルソーシャルワーカーとの連絡が患者・家族への安心へつながる。

事例検討会やセミナーには多くの参加があり、退院支援のプロセス、患者・家族の意向を尊重した支援のあり方、地域の医療・福祉サービスの活用と多職種連携の実際を学ぶことができた。地域包括ケアシステムの構築が進み、病院の役割・機能が大きく変化する中、病院看護師の果たす役割の自覚と患者・家族に対する支援の強化につながったと考える。

事例検討会は研究メンバー所属施設や協力病院で開催したため、参加が容易となり、多くの看護師の参加があった。また、事例提供する際の準備においては、情報提供者らが退院支援事例を振り返ることができた。このことから、病院看護師の退院支援力向上に貢献したと考える。